

総務常任委員会会議録

[平成23年10月25日開催]

南あわじ市議会

総務常任委員会会議録

日 時 平成23年10月25日
午前10時00分 開会
午後 0時10分 閉会
場 所 南あわじ市議会委員会室

I. 出席委員、欠席委員、事務局出席職員及び説明のために出席した者の職氏名

出席委員（7名）

委 員 長	出 田 裕 重
副 委 員 長	熊 田 司
委 員	谷 口 博 文
委 員	柏 木 剛
委 員	川 上 命
委 員	北 村 利 夫
委 員	蛭 子 智 彦
議 長	阿 部 計 一

欠席委員（なし）

事務局出席職員職氏名

事 務 局 長	高 川 欣 士
次 長	阿 閉 裕 美
課 長	垣 光 弘
書 記	川 添 卓 也

説明のために出席した者の職氏名

市 長	中 田 勝 久
副 市 長	川 野 四 朗
市 長 公 室 長	中 田 眞 一 郎
総 務 部 長	瀨 本 幸 男
財 務 部 長	土 井 本 環
会計管理者次長兼会計課長	馬 部 総 一 郎

市長公室次長	橋本浩嗣
総務部次長兼選挙管理委員会書記長	林光一
緑総合窓口センター所長	長尾重信
西淡総合窓口センター所長	前田和義
南淡総合窓口センター所長	山下達也
財務部次長	細川貴弘
次長兼監査委員事務局長	高見雅文
市長公室課長	田村愛子
総務部総務課長	佃信夫
総務部防災課長	松下良卓
総務部情報課長	富永文博
ケーブルネットワーク淡路所長	土肥一広
財務部財政課長	神代充
財務部管財課長	堤省司

II. 会議に付した事件

- 1. 所管事務調査について…………… 4
 - (1) 市の総合的企画、調整について
 - (2) 行財政計画について
 - (3) 市有財産の維持管理と財源の確保について
 - (4) 消防・防災対策の推進について
 - (5) 情報化の推進について
 - (6) 離島振興対策について
 - (7) 国際交流及び友好市町の調査について
 - (8) 選挙管理委員会、監査委員、固定資産評価審査委員会に関すること
- 2. その他…………… 4 3

III. 会議録

総務常任委員会

平成23年10月25日(火)

(開会 午前10時00分)

(閉会 午後 0時10分)

○出田裕重委員長 おはようございます。

皆さんおそろいですので、少し早いですが始めさせていただきたいと思います。

先月は、台風台風でいろいろとありましたが、今月は毎週豪雨というか、ゲリラ豪雨というかが続いております。日曜日にも総合防災訓練、皆様方委員並びに執行部の皆さん方もかなり出席をされて思うことがあったと思います。まずはお疲れさまでしたということでお願いをします。

きょうの新聞でも、兵庫県がいよいよ津波の想定高さを公表をしておりました。南あわじ地区で10.85ですか、どういう算定式ではじき出したのかはよくわかりませんが、そういうことも含めてきょうの審議の中で、また委員の皆様方から御意見あると思いますので、本日も一日よろしくをお願いをしたいと思います。

私からは以上です。よろしく申し上げます。

市長が来られてますので、ごあいさつをいただきます。

市長。

○市長(中田勝久) 皆さん、おはようございます。

きょうは、総務常任委員会の皆さん方の所管調査ということで、本当に御苦労さんでございます。

今も、委員長からお話がありましたとおり、一昨日ですか、南あわじ市の総合防災訓練、本当にありがとうございました。なかなか訓練ということでありますので、どうしても全体的な状況を私も把握しておりませんが、阿万の場合結構人も来てくれましたし、中身についても一応計画どおり進められたかなというふうに思っております。要は、今回は特に津波に関するのを重点的に防災訓練をさせていただきました。今、委員長からもお話がありましたとおり、きのう知事が2時から県の定期の知事の懇談の中で、記者会見の中で発表されております。また後ほど、私どものほうに来ております津波防災対策の推進ということで来ておりますので、また総務のほうからそのコピーをお渡しして、また目を通しておいていただけたらと思いますが、なかなか国のほうの中央防災会議、このいろいろ専門家が検討してくれてますが、具体的な数値がなかなか出てこない。これも、河田教授にいろいろああいいう講演の中でお話を聞いておりますと、先般の東日本の震災についてはもう想定外という言葉が絶えず出ております。また、そういう中身にもなっておりますが、その河田教授等々のいろいろな講演の中では、もう想定外という言葉を使うような形ではぐあい悪いというふうに言われております。まさに今、中央防災会議の中でもそのような

表現をせずに、数値的なものを出していこうとしてるのかなというふうに思います。しかし、なかなかプロであってもその想定ができてなかったということでございます。きょうの数値的な問題もこの新聞の中でも出ておまして、今もお話あったとおり、兵庫県下では津波高が本当に南あわじ市が飛び抜けて高いということでございます。ぜひ、早く避難路なり、避難した場合の一時的な雨よけ風よけの簡単なものでもするべきというふうに思っております。当然、24時間いつ、夜中であろうと発生するかわかりませんので、何とか太陽光発電の蓄電をした、ああいうものも一緒に肝心な場所にできればなというふうに思っております。機会あるごとに、私も西村先生を初め関係する人たちにそのお話をしております。ぜひ、新年度といわず、三次補正の中でそういうものに取り組んでほしいというふうに言っておりますが、どこまでその三次補正でそういうものが可能かというのは非常に不透明でありますし、なかなか難しいんかなと思っております。しかし、まずはくどいようですが、地域で避難路の整備、これはやっぱり地域の人が一番よくわかってるんで、合わせて私どもも一緒にいろいろ協議させてもうたり、また取り組みはさせていただきますが、ぜひまた議員の先生方も地元でそういう声がありましたら、一緒にお話をして進めていただければ非常にありがたいなと思っております。いつこういう状況が起きるかわかりません。やはり、行政としてはその取り組みを積極的に、とりあえずはハード面ではなかなか難しいんですが、ソフト面のそういう施策なり可能なものに取り組んでいきたい、このように思っております。

あと、たこフェリーの話もあるんですが、まだこれはなかなか確認できておりません。今のところ、明石市と淡路市が、お互いにその経過については勝手に会社がしたんじゃないかとか、そういうようなやりとりでございまして、私どもは以前から議員の先生方にもお話してるとおり、今まで合併前に4町で出資しております100万円ずつの400万円、この分については、以前も御了解を得てるとおり、もし会社が倒産するなり清算すると、倒産の形になってるんですがまだ清算はできておりません。清算をする場合には、400万円までは今までの経緯からしていたし方ないということで、私自身もはっきりと門市長にも申し上げております。その流れが今後どうなるか、ちょっと無責任ではないんで傍観しております。というのは、先ほど申し上げたとおり、ほとんどの持ち株は明石市、ジェノバ、そして淡路市になっております。そういうことで、またこの件、具体的にまたいろいろわかってき次第、議員の先生方にもおつなぎをしていきたいなというふうに思っております。

済みませんが、ちょっとあと所用が入ってますんで、中座させていただきます。

○出田裕重委員長 ありがとうございました。

それでは、審査に入る前ですが、三原総合窓口センターの久田所長が、通院のため欠席ということで連絡をいただいております。御報告申し上げます。

本日は、所管事務調査全般についてを議題としたいと思っておりますが、先ほど市長のあいさ

つにもありましたけども、総務部長、何か資料あるんですかね。先に配っていただけますか。コピーして、お願いします。

一応、全般ということですけども、できるだけまとめて。皆さん防災の話が出たら、防災のまとめて質疑を繰り返していただければと思いますので、よろしくお願いします。

谷口委員。

○谷口博文委員 一昨日の防災訓練踏まえて、市のほうも当然検証されたと思うんですけど、担当部長、次長、課長の防災訓練の検証結果というか、それぞれの感想についてどういうお持ちですか。

○出田裕重委員長 総務部長。

○総務部長（渕本幸男） まずもって、一昨日の総合防災訓練につきまして、総務委員の皆さんにおかれましては、早朝から参加いただきまして本当にありがとうございました。

天候も、前日は大雨洪水警報が発表されまして、市のほうも警戒本部というようなことで立ち上げて、いろいろ警戒に当たってました。当日どないなるかということもあったんですけど、やはりこれは防災訓練というようなことで、状況はいろいろな状況に迫られたんですけど、まずは実施する方向でというようなことで準備を進めてきました。今回は、やはり東日本大震災を受けて、やはり津波対策というような関係で、特にその後いろいろきのう県の発表もあったんですけど、想定2倍というような中で、マグニチュード9.0という想定の中で防災訓練を実施させていただきました。

中身につきましては、やはり避難するというようなことで、メイン会場ではそれぞれ津波が1波2波、そういうような形で倍を想定したというような中で、一たん阿万の小学校の体育館に避難をしていただいて、それでその津波高が大きく上回ってくるというような状況の中で、2段階避難というようなことで、垂直避難ということで、2階のほうへ再度避難をしていただく訓練もさせていただいたというようなことでもございます。メイン会場では、その他いろいろな関係機関の協力を得ながら、参加していただいた、避難していただいた市民の方々にも体験をいただいたり、そういったこともさせていただきました。

それと、市内各地、それぞれ自治会、自主防災組織が避難訓練を中心にそれぞれ高台へまずは逃げるといった訓練をしていただき、その後いろいろそれぞれの課題であります地域の防災、いろいろな訓練がございまして、消火活動であったり、また避難路の点検であったり、いろいろなことをしていただいております。総勢1万人足らずの方々に参加いただいたという報告もいただいております。そういうことで、今回は避難訓練を中心にしたというようなことで、感想としては、第1段階としてはそれぞれ津波が大きく以前とは変わってきたというようなことをそれぞれ市民の方に認識いただいたり、そういったことができたんでは

ないかなというように思ったりします。

以上です。

○出田裕重委員長 谷口委員。

○谷口博文委員 それなら次長、防災担当課長の、今回の訓練重点目標的なもんが、津波を想定した避難訓練をされたというような今の部長のお話やったんやけど、地域によっては、私どもの地域では消火訓練というか、市の担当者の方が当然地震のそういうような説明もしていただけたというようなことで私も報告を受けとるわけですが、成果というか、今回の訓練で重点的な津波をあれした成果的なもんは、課長、どういうふうなお考えをお持ちですか。

○出田裕重委員長 防災課長。

○防災課長（松下良卓） まずもって、23日の防災訓練の参加ありがとうございました。

まず、市内全域でそういう防災訓練をしているのは、島内では南あわじ市だけでございます。毎年防災訓練をやっておるんですけども、やはりその地域地域で課題とかあれば消防団、または自治会、それから自主防災組織の代表の方々に防災訓練のチラシとか、訓練の内容をお知らせしております。ですから、沿岸部以外の地域の方々と、沿岸部とでは当然訓練の内容が変わってこようかと思うんですけども、やはり住民の方々がいち早く、火災のときも同じですので、安全な場所へ逃げるというようなことは十分認識されたというようには思っています。

それから、先ほども部長申しましたように、沿岸部の方々については、3月11日の震災があった関係で、より高く高台へ逃げる訓練はされたというふうには思っています。特に福良についても、かなりの成果があったというようなことでも聞いております。

以上です。

○出田裕重委員長 谷口委員。

○谷口博文委員 きょうの新聞報道で出てたけど、その津波被害予想されるエリア的なもんで、9平方キロじゃ、市内の割合が4%であるとか、4,700棟や6,700人じゃというような数字が出とったと思うんですわ。そのエリア的なもん、その9平方キロというのは、福良、阿万、どの辺が被害想定されとる、きょうの新聞報道で6,700人、あの辺の地域別でちょっと説明してください。

○出田裕重委員長 防災課長。

○防災課長（松下良卓） まず、津波の想定高を2倍というふうな形で県が発表しております。今までの津波の想定は、安政の南海地震のマグニチュード8.4の想定で今現在、それに基づいてハザードマップを作成しております。3月11日の地震でマグニチュード9.0というふうな結果が出ました。そういうようなことがあって、マグニチュード8.4から9.0になれば、学者の方々、研究者の方々は、津波は倍になるだろうという結果になりました。今回兵庫県においては、まず津波高が倍になったその津波高と、その沿岸部の地域の標高を出して。

○出田裕重委員長 谷口委員。

○谷口博文委員 いや課長、阿万じゃ、灘じゃ、沼島じゃ、福良じゃ、西淡のほうはどないなっとる。9平方キロで、6,700人が何か被害があるというような数字が出とんなら、このエリアはどこですかということ聞きよる。

○出田裕重委員長 防災課長。

○防災課長（松下良卓） そのエリアにつきましては、今まだ県のほうで、今、修正中でございます。ですから、正式なそういう警戒区域のエリアの部分については、今、防災課のほうには入ってきておりません。ただ、西淡地域においては、松帆地域についても当然警戒区域図の範囲には入ってこようかと思えます。

○出田裕重委員長 谷口委員。

○谷口博文委員 きょうの新聞にね、4,700棟というんか、9平方キロで市内の4%じゃというようなやつで出とったんよの。ということは、市からの情報提供でとんのかいなと思てんけんど違うのけ。

○出田裕重委員長 防災課長。

○防災課長（松下良卓） そういうのは、市からは情報提供はしておりません。

○出田裕重委員長 谷口委員。

○谷口博文委員 ほな、新聞が勝手に書いとんの。

中央防災会議等で、当然防災計画を、それで市の地域防災計画の見直しの状況というのは、現状よ。当市における地域防災計画の進捗状況よ、それについて説明してください。

○出田裕重委員長 総務部長。

○総務部長（渕本幸男） 先ほどの部分で、浸水区域ということで、先ほどお配りした資料にも福良と阿万、そういった部分で出ております。それで、県が区域をここまでということではっきりと図面であらわせる時期については、11月になりますよというような形で報道されとると思います。今、先ほど防災課長がおっしゃったような部分で、その時点でその中の世帯数、そういった部分がはっきりしてくるというような状況です。先ほど申しましたように、当然湊・松帆地域、そういった部分も一部分入ってくるというようなことになろうかと思えます。

それと地域防災計画、これの見直しにつきましては、これも県がこの公表につきましては、あくまでも国の中央防災会議のほうで示されるその地震の規模等々、そういった部分については、確定するのがやはり24年度後半になってくるというようなことですので、県はあくまでも国がまだ1年も先になってくるというようなことの中で、やはり県として暫定的に早い段階で、そう大きく違わないと思うんですけど、そういった部分で公表していこうというようなことで取り組んだのがこのたびの公表ですんで、当然地域防災計画を策定していくということになりますと、暫定というものでやはり策定はできないと思えます。それで、国の防災会議の中で出た、そういった結果を踏まえて、それぞれの地域の状況も出てきます。その中で、県を通じて県と協議しながら、南あわじ市の防災計画を見直していくと、具体的に見直していくということになってきますんで、この作業につきましては、国の結果が出ないことにはなかなか、準備段階はできますけど、最終的な形のは今のところできないというような状況でございます。

○出田裕重委員長 谷口委員。

○谷口博文委員 地震、津波はまあそれとして、風水害についてちょっとお尋ねするわけですが、近年さまざまな台風初め、さまざまなゲリラ豪雨というか、集中豪雨で風水害の被害があれしとるわけやな。市内において、これはちょっとお尋ねをしたいのは、市の水防指令とか、1号配備2号配備のときの分庁舎での態勢について、どのような態勢をとられておるかというのをまずお尋ねいたします。

○出田裕重委員長 総務部長。

○総務部長（渕本幸男） それぞれの、現地対策本部の態勢というようなことございます。一応、防災計画の中では、それぞれ警報が出てそして水防指令、県からの発令もあります。その段階に応じて、それぞれ市のほうでまずは警戒態勢に入ると。そして、各現地対策本部では、それぞれの現地の警戒本部の中でそれぞれの警戒に当たっていくというのがまず第1段階です。それで、危険が今後想定されるというような状況になりますと、当然災害対策本部を立ち上げてしていくわけでございます。それで、それぞれの段階に応じて、警戒の配備であと1号、2号、3号配備というようなことで、3号配備になりますと、職員のほとんどがそれぞれ庁舎に詰めて、警戒なり、パトロールなり、いろいろな災害対応、そんなことに当たっていくというようなことになってます。

ただ、その状況状況に応じて変化がありますので、一概にこういうときはこういう態勢というのは、基本はありますが、その状況に応じて若干対応を臨機応変に警戒態勢の段階では組んでいくというようなこともあろうかと思えます。

○出田裕重委員長 谷口委員。

○谷口博文委員 風水害に関したら、地域的なもんがあると思うんですわね。例えば、西淡エリアと三原エリアとは、当然被害予想されるような全然違うと思うんですわ。その辺の配備が、西淡庁舎と緑庁舎、三原庁舎、南淡庁舎、それぞれ3号配備になれば、とにかく同じような状況で職員の張りつけをされとるんですか。その辺はどうなんですか。

○出田裕重委員長 総務部長。

○総務部長（渕本幸男） 谷口委員おっしゃったように、当然、地域地域でその状況が違います。そういうことで、その状況に応じて、例えば風水害でありますと低地帯、そういうところを抱えている現地対策本部については、特にそういう部分の態勢を強化していくというようなことも当然今までしております。

○出田裕重委員長 谷口委員。

○谷口博文委員 私は、部長、はっきりと言わしてもうたら、節電も大事なんです。節電。通常の平時は節電してもうて大いに結構。だけど、こういうふうな風水害のときに、職員が待機されとるときに、庁舎が暗いような状況でやられとるといので、その辺は節電しよんのか、私はそういう非常時やから、そんな節電どころかどんどんどんどん煌煌と

電気つけて、市民が安心するようなことしていただきたいと。

それと、例えば西淡庁舎、幹部職員だけの1号配備、2号配備、その辺私はちょっとよくわかりませんが、水防指令1号が出たら、大体今から6時間後に被害予想されとか、2号やったら3時間後に必ずそういうような被害予想されるということで、当然市の対策本部のほうが人員の配備をして、幹部職員だけの配備で、やっぱり現地、現場へ出て行っての情報収集はでけへんと思うねん。私は、その辺はやはり市民の安全を考えれば、若い職員もどんと参集させて、西淡とかやはり被害予想されるエリアの職員は、例えば三原の職員でも西淡エリアへ充てんするぐらいの、それぐらいの配備をして、万全な備えをしていただきたいというような思いがあるわけですね。現状見とったら、私もちょうど言うところのは、本当に薄暗いような状況で、本当に管理職とか部次長、課長だけで、僕は大丈夫かいなというような思いがあるねんけど、その辺は大丈夫やという認識なんですか。

○出田裕重委員長 総務部長。

○総務部長（淵本幸男） 今回の対応につきましては、台風12号のときは職員の管理職ということでなしに、いろいろな対応をさせていただきました。ただ、15号その後の集中豪雨的なものも2回あったわけなんですけれども、そのときは管理職を中心にさせていただいたというような。その時々によって、その状況に応じて対応してるんですけど、警戒態勢のとき、あるいは災害対策本部を設置してというときについても当然違うわけなんですけど、その中でも当然全員が管理職ということでもないわけなんです。例えば、都市整備部でありますと水門関係もございます。また当然防災課もございます。いろいろな施設関係のパトロール等もあります。そんなんで、中心は管理職で当たったということでございますが、全部が全部そうではない部分もございます。

それと、先ほどお話しあったように、庁舎がやはり市民から見てそういう態勢に当たるとんなどということで、電気の部分もそこら辺も御意見ありますんで、そういう部分につきましては、やはり市民から見てそういった市の活動、いろいろな周知の部分も含めまして、そういった部分をもっともっと市民が安心していただけるような対応を今後進めていきたいなというように思ってます。

○出田裕重委員長 谷口委員。

○谷口博文委員 せっかく各西淡センター所長来とんので、南淡、西淡、緑の所長よ、そういう風水害時の自分とこの施設の態勢はとれとるかとれとれへんかよ。もう十分やというような思いなんけど、それともやはりまだまだ人員的には不足しとるとか。私が聞きたいのは、当然水防活動時になってきたら、さまざまな業者へ道路の通行どめの規制であっ

たりとか、水防の資機材というか、土のうであったり、ビニールシートであったり、そういう調達は事前に万全な態勢でとられとるのか、各センター長、ちょっとそのあたりどうなんですか。

○出田裕重委員長 西淡総合窓口センター所長。

○西淡総合窓口センター所長（前田和義） 西淡の現対本部では、12号のことを言いましたら、建設課の職員も出て、冠水した場所が相当ございましたので、浸かっている場所について、これは通れないというようなときはもうすぐにバリケードを設置して通行どめと。また、今も言われました土のう等についても、事前に発注してまして用意をしておりました。それと、あった分については、各地域から要請があれば取りに来ていただいたというような現状でございました。

以上です。

○出田裕重委員長 南淡総合窓口センター所長。

○南淡総合窓口センター所長（山下達也） 南淡総合窓口の対応につきましては、先ほど西淡のほうからの所長のほうからお話がありましたように、それぞれ土のうとか、あと土のうを運搬する2トンダンプ、また軽のダンプ、その辺につきましては事前に対応させていただきまして、住民の方々からの要請につきましては、即座に土のう等は対応できたと思います。ただ、通行どめとか、また高潮等が南淡につきましてはありますので、それへの対応につきましては、若干不安な部分を抱えながら、現場のほうでそれぞれ対応を御協力いただいて当たっておるといようなところでございます。今後、緊急の応急的な措置につきましてはの業者の対応等、今後十分防災課なりと協議しながら態勢を整えられたら一番いいのかなというふうに思っております。

以上です。

○出田裕重委員長 緑総合窓口センター所長。

○緑総合窓口センター所長（長尾重信） 緑総合窓口のほうといたしましては、今、西淡あるいは南淡とも話されたようなのと同じようなことですが、特に緑の場合は風水害というのが大きいのかなと、被害という部分からとらえれば大きいかなというところで、消防の方も方面隊長を初め詰めていただいています。そこからいろいろ想定される部分があれば指示を出していただきながら、現場のほうへ見回っていただいたり、あるいは応急処置をしていただいたりということとともに、業者のほうにつきましても、代表の方に、事

前にこういうときにはお願いしますよというような連絡を先にとっておきまして、実際15号のときでしたらもう消防から、あるいは現地対策本部のほうから、バリケードなりあるいは土のうなりということも依頼をさせていただいて、早急にそれも動いていただいたというようなこともございますので、今の段階ではそれぞれ対応についてはいろいろな想定はされますけども、12号あるいは15号のときには、多少おくれたりという部分もあったかと思えますけども、対応は徐々にできておるのかなというような感想を持っています。

○出田裕重委員長 谷口委員。

○谷口博文委員 南淡の仁尾でちょっと家屋への冠水というかあったと思ねんけど、12号のときに仁尾地区で。あの辺のときというたらだれが、消防団員がしよんのか、それとも役所の方が行ってある程度水防活動をやられとるんですか。

○出田裕重委員長 南淡総合窓口センター所長。

○南淡総合窓口センター所長（山下達也） 12号の際には、恐らく高潮だったと思います。高潮につきまして要請がありまして、土のう等につきましては消防の方、また職員ともどもになって対応に当たらせていただきました。

以上です。

○出田裕重委員長 谷口委員。

○谷口博文委員 次、ケーブルにちょっとお尋ねしたいんやけど、ケーブルが断線することによって、丸山地区が全くのテレビとか情報入手できないような状況下に、12号のときになったんやの。灘と丸山地域が。今後のその辺、私も全くそういうことは丸山地区の方から聞くまでは知らなかったけど、本当にケーブルが断線することによって、何ら情報が入手できないような状況下になるというようなことなんやけど、今後市当局としてそのあたりに対するセキュリティーというか、その辺はどういうふうなお考えをお持ちですか。

○出田裕重委員長 ケーブルネットワーク淡路所長。

○ケーブルネットワーク淡路所長（土肥一二） 9月20日の、台風15号の接近による土砂崩れの関係なんですけれども、そのときについては、ケーブル断線ということで丸山地区のほうの情報発信ができないということで、ケーブルのほうから丸山地区の7自治会長さんのほうに障害の電話をまず入れまして、第一報を入れまして、それからケーブル

職員による広報車を1台出しまして、停波しておる広報活動を実施したような状態でした。

○出田裕重委員長 蛭子委員。

○蛭子智彦委員 今のことなんですけども、ケーブルについてはループで断線があってもバックアップはあるというふうに説明がこれまでされてきたように思うんですが、ループはできてないんですか。

○出田裕重委員長 ケーブルネットワーク淡路所長。

○ケーブルネットワーク淡路所長（土肥一二） ループ関係については、西淡のサブセンターのほう、湊にあるんですけども、そちらのほうまではループ化はできておりますけれども、今回断線したところの部分については、ループ化ということはできておりません。

○出田裕重委員長 蛭子委員。

○蛭子智彦委員 それは、当初からそういう計画だったんですか。

○出田裕重委員長 情報課長。

○情報課長（富永文博） 現在の、南あわじ市全域に工事を行った平成17年から19年当時の計画なんかでは、今申し上げたのがサブセンターというのが市内に6カ所ございますけれども、そのサブセンター間はループにしてお互い補完するような形になっておりますけれども、サブセンター間から各地区に伸びているファイバー線については、ループ化ということはしておりません。

○出田裕重委員長 蛭子委員。

○蛭子智彦委員 当初から、災害時というのは、有線の伝達方式であれば断線ということも当然予想されると。だからループ化が必要であるということで、ループ化の予算措置もされていたというふうに思うんですが、そういう中途半端なものであったら、ループ化をしておく意味がないんじゃないか。やるならばしっかりとループを確保して、1カ所切れてもバックアップがあるということが緊急情報の必須の条件ではないかというふうに思

うんですが、その点いかがですか。

○出田裕重委員長 情報課長。

○情報課長（富永文博） おっしゃるとおり、ループ化ということが完全な形でできればよかったんだと思うんですけども、各末端の地区までの完全なループ化ということになりますと、相当なコストの関係もあったのだらうと思います。そういうことで、今回いろいろな形での工事費の執行となったものだと考えております。

○出田裕重委員長 蛭子委員。

○蛭子智彦委員 ということになれば、この災害伝達情報システムそのものに重大な欠陥があると言わざるを得ないと思うんですね。ですから、この改善はやっぱりしっかりやっておく必要があるというふうに思いますが、いかがですか。

○出田裕重委員長 情報課長。

○情報課長（富永文博） 一つは、灘地区のことをございますけども、灘と沼島のほうのことをございますけれども、従来から継続しておりました洲本市との連携の中で、今はケーブル電話の連携を進めておりますけれども、今後洲本回りでのループ化を活用して、灘、沼島地区については対策を立てたいと考えております。

それから、今回もう一つ障害がありました丸山のほうなんですけれども、これにつきましても、阿那賀回りの形でファイバー線を延長する等の内容について、今、業者等とも相談しながら検討をしておるところでございます。

○出田裕重委員長 蛭子委員。

○蛭子智彦委員 そのループ化がやはりしっかりと機能するように、2カ所の説明だったわけですが、ほかにももう少し考えておく必要がある部分も出てくるのではないかと思います。伊加利であってもループ化をしておかないと、当然情報伝達が途切れるということもあろうかと思しますので、特にそういうことについては業者の蓄積もあるだろうし、放送設備の役割が災害時の情報伝達というのがこれが一番大きなテーマであったかと思うんですが、そこに欠陥があるということになれば、そもそも事業そのものの意味が問われるというふうに思しますので、こういうことが2度と起こらないように対策はしっかりやっておいてほしいと思っております。

○出田裕重委員長 情報課長。

○情報課長（富永文博） 最初に当たって、すぐに取り組みができる灘地区、沼島地区、それからあと丸山を初めその他の地区でそのような必要がある箇所についても、順次見直しをして計画的に進めていけたらとは考えております。

○出田裕重委員長 蛭子委員。

○蛭子智彦委員 そうしましたら、現在のネットワークの状況の一覧ですね、これはやっぱり一回出していただいて、我々も点検をしておく必要があるというふうに思うんですが、その点いかがですか。

○出田裕重委員長 情報課長。

○情報課長（富永文博） 業者が見るような図面しか今はないと思いますので、ちょっと整理した形で、簡潔な形でお出しできるように調整させていただきたいと思います。

○出田裕重委員長 柏木委員。

○柏木 剛委員 ちょっと関連して質問したいんですけども、そういう台風とかのときに、実はある議員さんとも話とったんですけど、いろいろ情報を得たいというときに、ちょっとコミュニティチャンネルやってみると、何かお達者音頭とか何か音頭やってたと。テロップが流れとるようなんですけどね。何かそういうときに、市民が見たいというそういう状況のときに、何かそういうことに対応していくような生放送的なことがあってもいいんじゃないかという、私もそう思ったんですけどね、その辺はどんな思いをお持ちでしょうか。

○出田裕重委員長 ケーブルネットワーク淡路所長。

○ケーブルネットワーク淡路所長（土肥一二） L字放送につきましては、緊急放送という形で下のほうに、緊急放送ということでテロップを出させていただいております。その中で、今までは議員さんおっしゃられたような、お達者音頭とか通常の放送をしとった部分がございますけれども、今後はそういうものが果たしていいのかどうかということでまた内部でも詰めて、また検討させていただきたいと思います。

○出田裕重委員長 柏木委員。

○柏木 剛委員 いやいや、いいお答えいただきました。やはり皆知りたいのは、川の増水がどうなってるかとか、海の潮位がどうなってるかとか、確か監視カメラが3カ所が別の、インターネットでは見れるんですけどね。やっぱりそんな状況も踏まえながら、あるいは雨雲のデータとかの様子も踏まえ、あるいは緊急でよく音声放送してますけど、そんなことも含めながら、市民にリアルにそういう情報が見れるという、そういうチャンネルになればいいんじゃないかと私は思っていましたんで、ぜひ一つそんなことも。臨機応変に、こういう状況のときには切りかえて、災害中心の放送に変えてもらおうとやっぱり役に立つ放送になるんじゃないかと私は思います。ぜひそんな方向でと思うんですが。

○出田裕重委員長 川上委員。

○川上 命委員 ちょっとお尋ねしたいんですけど、23日の日に阿万で防災訓練ということで参加させていただいたわけですが、朝の早朝8時ということで、我々も作業着ということで、どのような訓練ということで興味を持つたんですけど、どうもその世話していただいている方々には失礼な言い方になるかもわかりませんが、ただどうも訓練しとる者に緊張感、これは自分自身にも責任があるんですけど、緊張感というものが全然なかったような気がするし、私は阿万しか知りませんが、自分の地元に行かれてもあったということを聞いてます。そういった、その日に組織だつての訓練をどのようにされたのか、ちょっとこれを教えていただきたいと思います。

○出田裕重委員長 防災課長。

○防災課長（松下良卓） 防災訓練には、いろんな関係機関の方々に協力していただいて、当日訓練をさせていただいたんですけども、今、川上委員おっしゃいましたように、そういう緊張感的な部分が見受けられなかったというような部分が、私どもにつきましては、今回の訓練のメインは、小学校の体育館から次の2段階避難というような形で、校舎の2階へ避難をする訓練というところが一つのメインでございました。ただ、その訓練に参加の方々が今度運動場に来られたときには、やはり小さい子供さんからお年寄りというような結構年齢層の幅の広い方々の参加を得られたんですけども、若干そういう気配はあったのかなというふうには思ってます。やはり、8時に市内全域にサイレンを鳴らして、緊急の地震速報という訓練の放送も流させていただいたんですけども、今度はこういう本当に訓練やというような気持ちで、関係機関の方々にもきびきびとしたような動きもして

いただければというふうには思っています。

以上です。

○出田裕重委員長 川上委員。

○川上 命委員 今、災害はいろいろあるわけですが、最大の関心はやっぱり東南海・南海地震ということで、想定外とはどれだけの規模で来るかも、きょうは新聞見たらかなりあれから見ますと被害が大きいと思うねん。仮に、これは地震によって壊滅的な打撃を受けた中で、津波がそのあと押し寄せてくるということは大変なことになるわけで、トルコでもかなりの被害者が出た中で、生き埋めとかいろいろあるわけで、そういった方を救助せなならんし避難もせんならんという中で、まず自分の命は自分で守るという、これは災害のときの鉄則であるわけですが、そういった中で避難路は十分福良のほうも、私らも実際に避難路を歩かせていただいたわけですが、確かにそういった地域の想定で常にそういった訓練は地域の方々、区長さんを中心にやられると思っとるんですけど、これは津波とか地震というものは、これは昼来るとは限っとらへん、これな。真夜中の暗やみの中で壊滅的な打撃で、電線が今のように情報もぷつぷつ切れてしまうし電気もつかないと。そういったことはやみ夜の中で避難をせなならんという中で、逃げてくださいと、まず逃げてくださいという中での、暗やみの中での避難路をどのように誘導されてるのか、自家発電によって、また道しるべでずっと避難路につけば自家発電でまた明かりがつくというようなことのできる設備ができていいのか、そういった点についての、夜中に起きた場合の想定についての対策ができていいのかできていないのか、ちょっとお聞きしたいと思います。

○出田裕重委員長 防災課長。

○防災課長（松下良卓） 総務委員会の開会のときの市長のあいさつにもございましたように、今、国、県のほうでの要望もさせていただいてるんですけども、太陽光パネルでバッテリーに充電をして、それで電気をつけると、街灯をつけるという、そういうような非常時のときの街灯を、結構高価なものなんですけども、今そういうのを設置したいというふうには思っておるんですけども、なかなか予算の関係もございます。私ども思っているのは、やはり今おっしゃいましたように、夜中とか暗いときに震災が起きると、やはり避難路の入り口、せめて目印として入り口のところにそういう停電のときでも赤々となっているような街灯が必要やと。それプラス、一人ひとりの非常時の持ち出しの中でも、懐中電灯の準備というようなことは自主防災の学習会の中でもお伝えはしておるような、そういうような状況です、現在は。

以上です。

○出田裕重委員長 川上委員。

○川上 命委員 それは、太陽光とかいろいろとかそれは考えとるということは、これは考えていろいろとしていくのが当たり前やけど、そんな悠長なこと言ってられない。いつ、あした起きるや今起きるやわからんような災害に際して、やっぱり万難を排すということは、予算というものは、自家発電とかそういった高台のところから線を引いた中で、やっぱり暗やみのときには発電機、高台におれば発電機でも自家発電回せるわけですので、そういったものを回した中で道しるべをすとかいう。太陽パネルみたいに高額な、予算とかそういうことやなしに、もっとできることからやるということをやらずには大事じゃないかと思うんやけど、その点どうですか。もっと安い自家発電とかいろいろなことでも応急にしといて、また順次そういった、高価と今聞いたんですけど、そういったことに準備をしていくという、どうですか。

○出田裕重委員長 防災課長。

○防災課長（松下良卓） 自家発電の設置といいますと、私先ほど説明させてもうた街灯、電源の要らない街灯よりも高くつくんかなとは思いますが。自主防災の組織の中で、また自治会の中でも、地域の公会堂に発電機とライトとか整備されている自主防災会もいらっしやいますけれども、そういう高台のところに自家発電のようなものを置いて、それで避難路の何方か電気で明かりをとすということよりも、今言う太陽光パネルのほうが安くつくんかなという思いはしています。研究はしてみます。

○出田裕重委員長 川上委員。

○川上 命委員 安いとか高いとかいう、こんなことは論議しよったら市民の方に怒られるわけで、やっぱり市民が暗やみの中で目印に、まず逃げるといふときに目印がなかったら。特に年寄り、懐中電灯というても懐中電灯が間に合わない場合もあるわけで、壊滅的に道路も寸断せられ、家もこけたということでわからん。やっぱり道しるべというのは一番大事やと思うねん。迅速に逃げるとか、避難しようと思ったら。そういったことに対して、高いとか安いとかでなしに、やっぱりが一んとエンジン回したらすぐつくやつもあるし、そういったことで安い発電機もあるし、私はどうこうせえと言うんやないけど、やっぱりそういった市民の安全をまず第一に考えた中でのことをやってもらわんことには、ただ安いや高いや予算のことばかり言うたら、これは海にふたしたら一番ええんやけど海にふたできへんねん、まず逃げなさいと言ひよんねんさかい。緊張感持って、常に地震

がいうて津波が来るといときには逃げなさいと。まず何もって、まずは逃げろということに住民の方に公表のためにいろいろと講習なりいろいろしよんのけ。やっぱり、防災課がそういった、金がないとか太陽光とかそんな理想論ばかり言うたってあかんと思うねん。やっぱり、早急にそういったことを市民の安全のためにもやってあげるといことはええことだと思ふんです。どうですか、もう一遍。

○出田裕重委員長 防災課長。

○防災課長（松下良卓） 避難路の整備のときに、地域の方々と協議をしながら、そういう高いところで発電機とちょっとしたサーチライト的な部分も設置するようなことも協議をさせていただきたいというふうには思います。

○出田裕重委員長 ちょっと一言いいですか。

○熊田 司副委員長 出田委員長。

○出田裕重委員長 かなりな批判を恐れずに言いたいと思いますが、夜の避難訓練というのを、この間の日曜日のようなああいう大きな避難訓練は問題があると思いますが、難しいと思いますが、午前8時の避難訓練があれば、午後8時の避難訓練もあって当然ではないかもわからないですけど、検討の余地はあるのかなと思いますけども、その辺について見解を。

○熊田 司副委員長 防災課長。

○防災課長（松下良卓） 突然の質問の内容なんですけれども、夜間の訓練につきましては、そういう想定もあってもいいのかなという、今初めて感じております。ですけど、そういう安全面の態勢、訓練に参加してけがをされないような安全面の態勢を十分配慮しながら、市内全域ではなくして、どこかある小学校区だけとかいうのをまず試験的、試験的と言うたら言葉が悪いんですけど、まずやってみるといのも一つの方法かなというようには思います。

○熊田 司副委員長 出田委員長。

○出田裕重委員長 むちゃな提案だとは思いますが、今は。でもね、私も消防団で夜の訓練もある、消防団はやってると思いますし、現段階では自主防災会の方とか自治会の方に

夜歩いてもらうと、そういうのもあっていいのかなと思いますので、ぜひできるところからそういう投げかけをしていただければ、また懐中電灯ないというような気づきだけでも十分大きなことやと思いますし、そういったことも投げかけていただければなと思いますので、お願いしたいと思います。

自分だけしゃべってあれですけども、ここで暫時休憩をしたいと思います。

再開は、午前11時5分といたします。

(休憩 午前10時55分)

(再開 午前11時05分)

○出田裕重委員長 それでは、再開いたします。
谷口委員。

○谷口博文委員 先般の防災訓練で、女性消防団なでしこ分団よ、非常に素晴らしい救命講習会というか、今の市の施策の重点項目に5万人全員が救急隊員であるというような、そのようなキャッチフレーズというかあったと思うんですけど、今のなでしこ分団の救命講習の頻度というか、その辺の活動状況についてわかる範囲でお答えください。

○出田裕重委員長 防災課長。

○防災課長（松下良卓） そういう救命講習の関係につきましては、今現在は女性消防団員なでしこ分団の方々をお願いをして、自治会また自主防災会の研修会で出向いていただいております。年間に、少なくとも5回6回の自主防災会の方々に出向いて行っております。人数のほうは、今資料は持ってないんですけども。
以上です。

○出田裕重委員長 谷口委員。

○谷口博文委員 そこで、当然、救命講習開催するに当たってのある程度費用的なもんがかかってくると思うけど、その辺の消防団の、なでしこさんの財政的な処置というのは講じられとるんですか。

○出田裕重委員長 防災課長。

○防災課長（松下良卓） 団員に対してのそういう特別な費用弁償的な、報酬的なものはございません。ただ、市のほうでそういう訓練用のAEDの購入したり、それから人形を購入したりして、今赤ちゃん用の人形とか、大人用の人形というので全部で3体を準備して講習会に出向いて行っております。

以上です。

○出田裕重委員長 谷口委員。

○谷口博文委員 消耗品というか、そのときに使用するようないろいろなさまざまな備品というか、消耗品的なものその辺も当然市の当局でやっていただいとんのやね。

○出田裕重委員長 防災課長。

○防災課長（松下良卓） はい、そういう講習会に必要な消耗品的な部分については市のほうで購入をして、なでしこ分団さんの活動には協力しております。

以上です。

○出田裕重委員長 谷口委員。

○谷口博文委員 市の職員の救命指導員の、指導員というか、救命講習を取得した職員の割合というのはどれぐらいおられますか。

○出田裕重委員長 防災課長。

○防災課長（松下良卓） 正式な人数は把握はしておりませんが、3分の2程度は資格は持っておると思います。

○出田裕重委員長 谷口委員。

○谷口博文委員 できたら全員がそういうふうな、いざというときにはせめて救命処置ができるようなことを、全職員にそういうふうな指導徹底をしていただきたいと思うんですが、その辺はどうですか。

○出田裕重委員長 防災課長。

○防災課長（松下良卓）　　そういう職員全員の資格を取るということで、その指導者の研修会を3日間広域消防ビルで、職員も7名程度参加をさせていただいております。各庁舎代表で参加させていただいておりますので、今後その方々と広域消防の職員の方々と共同で、各庁舎ごとに救命講習の講習会をしていって、職員の全員に資格を取っていただきたいと。ただ、私たち持っている資格は3年に1度再研修をしなければならないので、以前取得してる方々もまた3年に1度そういう講習会を受けていただくというようなことで、担当の各庁舎の普及員の資格を持っている方々に今後活躍をしていただくということになっております。

　　以上です。

○出田裕重委員長　　谷口委員。

○谷口博文委員　　それは、本当に非常にいいことやなど。指導員の方が7名行かして、今から職員に対して指導の徹底をしていただけると、そういうことですよ。それはもうすばらしいなど。私は、やっぱり市民普及に当たっては、女性のなでしこ分団の方々が懸命にやっていただいているようなことに対して、全面的に市の防災課のほうも各地域の自主防災組織等へ出向いていって、今後市民普及を徹底してやっていただきたいなというような思いがあるんですけど、そのあたりはどうですか。

○出田裕重委員長　　防災課長。

○防災課長（松下良卓）　　各自主防災会、また自治会での防災学習の中で、こういう学習をしたいというような要望があったときに、それでは防災の学習だけでなくして、救命講習の講習も一緒に受講するようなプログラムを組んではどうですかというような形で、こちらの方から自治会とかにアピールをさせていただいて、それで各なでしこ分団さんは各自主防災会のほうに行っているというような状況です。

○出田裕重委員長　　谷口委員。

○谷口博文委員　　今回、防災訓練は津波の避難訓練を重点的にやっただけ。当然、炊き出しやったり応急救護訓練いうやつやね、結局は。そのあたりも見据えた上で、メニューも来年は応急救護というような感じで、各地域で訓練をやっていただくと。そのときに、やっぱり指導員持っとる市の職員であったりとか、なでしこ分団の方々が行っていただいて、地区ごとをそういうふうなメニューで、できたら3時間とかそこまで僕はやらいでも構わんと思うねんけど、とにかく蘇生のやり方だけ覚えてもらうような、そういうふうな

ことを今後の訓練、救護訓練というか、応急救護訓練というやつも入れていただいて、市の職員であるとか女性消防団員がやっていただくということをお願いしますわ。

終わります。

○出田裕重委員長 ほかに。
北村委員。

○北村利夫委員 もうきょうは、何や集中審議みたいな感じになってるんですけども、23日には阿万であったわけなんですけども、そのときに放送等で1波が何時何分、2波が何時何分というような放送されてましたけども、あれは阿万のどこまで放送が届いたんかなというふうに思ってるんですけども。

○出田裕重委員長 防災課長。

○防災課長（松下良卓） あの放送につきましては、阿万小学校の会場だけになります。
以上です。

○出田裕重委員長 北村委員。

○北村利夫委員 あの訓練は、いわゆる阿万全体が対象やったというふうに思うんですけどもどうですか。

○出田裕重委員長 防災課長。

○防災課長（松下良卓） 阿万全体といいますか市内全体の訓練で、特に阿万小学校の校舎等の広さも考えて、あのメイン会場に参加していただいた地域の方々につきましては、下町の地域と上町の小学校に近い一部の地域の方々に参加をしていただいたということです。

○出田裕重委員長 北村委員。

○北村利夫委員 阿万地区というような形で、僕ら案内いただいたと思ってるんですよ。それで会場へ行ったときに、8時になって8時半になったというときに、集まってくる人は意外に少ないなという印象を持ったんですよ。そういう想定してるとは知らなかったもんですから、「いや、こんなんでも本当に訓練になるんかな」という危惧さえ持った

んですけども、対象がいわゆる下町と上町ぐらい、その対象は何人ぐらいやったんですか。というのは、会場にみえとったんは、体育館にいたときには、ビデオ上映されとったんですけども、そのときには説明員が、今、会場にいてるのは100人ぐらいかなというような人数言うてましたんで、そんなもんなんかなと思いつつ会場におったんですけども。

○出田裕重委員長 防災課長。

○防災課長（松下良卓） あの阿万小学校に集合された自治会の方々につきましては、場所の集計のほうでは233名の方々が参加をされております。今回の、そういう下町地区と上町地区の一部というような訓練につきましても、阿万地区の9名の自治会長さんの中でいろいろと協議をさせていただいて、阿万地区よりも遠い地区につきましては、やはり小学校まで遠いということで、地域の高台で逃げるという訓練というような想定で行わせていただきました。

以上です。

○出田裕重委員長 北村委員。

○北村利夫委員 きょうは、一番最初のときの市長のほうのあいさつの中で、いわゆる23日市全体では1万強の参加が見込まれたというのがあったんですけども、僕は阿万から今度福良に戻ったんですけども、行ったらもうほとんどいてなかったということで、あのあとで聞いたら、備蓄を調べさせてもうたんやということやったんですよね。その備蓄の日付を見たらもう切れるのが結構あった。何でそのときに配ったらへんかったんかなという気もしたんですけども、多分来年の3月4月ぐらいで切れるもん結構あったように思うんです。それについてはどう思いますか。

○出田裕重委員長 防災課長。

○防災課長（松下良卓） まず、福良小学校のほうでの炊き出し訓練というのは、今回は訓練の内容の中には入っておりませんでした。今、北村委員申されます、もうそろそろ期限の切れそうな部分につきましては、今現在市内の小中学校で地域の方々と一緒に防災訓練をしていただく少しの補助事業があるんですけども、それで今アンケートをとって、その数量を今度防災訓練を実施する小中学校のほうに配布をさせていただいて、有効利用をさせていただくということにしております。

以上です。

○出田裕重委員長 北村委員。

○北村利夫委員 あちこち飛んで申しわけないんですけども、さっき川上委員のほうから夜間の照明の話が出てたんですけども、費用の問題、答弁言うてましたけども、応急処置として夜光塗料を塗るとかそういう方法は考えられないんですか。

○出田裕重委員長 防災課長。

○防災課長（松下良卓） 今、福良地域でも地域の方々と協議をしながら避難路の整備もさせていただいております。その避難路の入り口のところには、全国共通の標識、波のマークと人が走るような格好のイラストなんですけども、それは夜間塗料で夜でも光るように、目印になるようには、すべての避難路の整備をしたところについてはさせていただいております。

以上です。

○出田裕重委員長 北村委員。

○北村利夫委員 それは、その避難路にずっと続いてあるわけですか。

○出田裕重委員長 防災課長。

○防災課長（松下良卓） ずっと続いてはございません。入り口のところです。

○出田裕重委員長 北村委員。

○北村利夫委員 だから、そこらもう少し配慮が必要かなというふうに思いますが、いかがですか。

○出田裕重委員長 防災課長。

○防災課長（松下良卓） やはり今後、先ほども出田委員長が申されましたような、夜間で災害が起こる可能性というのは絶対ありますので、そういう夜光塗料の関係とか、何か目印になるようなものを、ガードレールほどしっかりしたものではないんですけども、そういうのを付けておりますので、そのあたりに何かつけておくような方法も、いろいろ何かそういう製品も調べて検討はしてみたいというふうには思います。

○出田裕重委員長 ほかに。
 議長。

○議長（阿部計一） 一点気になることがあるんでお聞きしておきます。この資料は県のほうからですか。2番目の現行津波対策、津波想定、レベル1、安政南海地震M8.4を前提に兵庫県に到達する最大津波高を想定している。この想定では、防波堤等の門扉と読むんですか、完全に閉鎖できなければそこから淡路南部の一部地域を除きと。これ、一部地域というのは西町をあそこを言うтонですか。どうですか。県で作成しとんねんけども、一部を除きで西町海岸にはもう昭和2年に建設した石垣の堤防があるんです。もう突いたらこけるみたいな堤防ですけども。海水浴場のほうへ行くところには立派な陸閘ができてますし、出田鉄工所は、今、委員長のところは、これは自分でやったんやと思うんですけどね。その中間で、この前から私も言ってあるんですけどももうがらあきなんです。それで、その個人的に大きな高波が来るとかいうときは、さし板みたいに入れてやってるんですけども、津波が来ればひとたまりもないということで建設課のほうにも言ってるんですが、何の今のところ対応もないと。一部を除きというのは、そのことを言ってるんですかね。どうですか。

○出田裕重委員長 総務部長。

○総務部長（渕本幸男） この資料について、詳細についてちょっと、きのうそういう形でいただいたもんで、まだ十分に県とこの部分はどうかというようなことなりという部分がちょっとわからん分がこちらもあります。そこら辺、もうちょっと確認させていただきたいというふうに思います。

○出田裕重委員長 議長。

○議長（阿部計一） その辺、私はこの前からそのことを言いよったんで、県のほうに言うてありますけども、この前河川改修、塩屋川の河川を津波が遡上するというで河川を中心にやると。県のほうも、河川改修は津波対策以外は向こう5年は予算はつけないというような河川課長のお話でしたけども、そういうことで塩屋川については前へ進んでいくんではないかと思うんですが、西町のそこについては、これは恐らくここをいってるんやと思うんです。あそこがあんな状況だったら、こんなもん全滅ですわね。

それと、この予想ですと、10.85やいう想定されとんねん。阿万もどこもなくなるわな、はっきり言うて。そやから、こういうふうに危険をあおっていただくというのはそ

れも大事か知らんけど、本当にいいけどもそれはハード面では何もでけへん、逃げてください、高いところへ逃げてくださいと、まだ阿万では逃げるところのないところがたくさんありますよ。そういうようなことで、やっぱりその辺を、南あわじ市も全然津波の関係のないところもたくさんあるし、もうこれは8.5やいうようになったら、もう阿万、福良、これはもう普通のところは全滅ですわね。その辺、やっぱりただえらい学者が想定しとるのか知らんけども、あおるばかりせんとやっぱりもうちょっと現実的に、高いところへ逃げるんやったら、今、市もやってくれよるけども、早急に逃げ場所のないところありますやろ、下町、上町にしたってどこも逃げられへんねんな。

それでもう一点、その辺お願いしたいんですが、課長、小学校と保育所、これは逃げる場所が何やら二転三転しよったけど、どこへ逃げるんですか。

○出田裕重委員長 防災課長。

○防災課長（松下良卓） 今現在は、やはり阿万小学校の講堂になるんですけども、23日に訓練させていただいたように、もし想定よりも高いというような津波が来るというようになれば、やはり今現在では小学校の2階のほうに避難をしていただくというような考え方でございます。ただ、国のほうの結果によって、若干この阿万小学校がどうなるかというのは今ちょっと微妙な部分がございます。

○出田裕重委員長 議長。

○議長（阿部計一） そない言いよる間に、いつ津波が来るやわからんねんな。それでこの間も小学校の体育館、あんなところは一時避難やいうて逃げとったって、余計箱詰めにされて死ぬだけの話であってね。それは、学校へ行くんやったら一時避難も学校へ行くように。それと、今、答弁なかったけども、保育所はどないするのや。保育所はどこへ逃げるのや。

○出田裕重委員長 防災課長。

○防災課長（松下良卓） 保育所においても、阿万小学校の体育館というふうには認識をしております。

○出田裕重委員長 議長。

○議長（阿部計一） その辺、何か育苗センターへ逃げるとか言ってましたよ。そやか

らその辺をきっちりと、現時点では。それと体育館一時避難やて、あそこや一時避難してまたあっちへ行かんなんやいうことでなしに、保育所も一般住民もその小学校の2階3階であれば、それはそこへ逃げとつてもうあかんやいうたら、それはもうえらいことになるねんけども、やっぱりきっちり決めといたってほしいと思うんよ。そうでないと、育苗センターへ行くや言いよる人もおるし、その点。

それと、さっきしつこいようですけど、淡路南部一部地域を除きと、この除きということとはどこかということ、部長、一回確認していただいて、そこであれば早急に対応していただくようお願いしまして終わります。

○出田裕重委員長 ほかに。
 熊田副委員長。

○熊田 司副委員長 前、ほかの議員からもあったかもわからないんですけども、要するにここが海拔何メートルという印ですよ。それを、この中央防災会議を待たずして、その現想定の高さということになってますんで、それをまずいろいろな箇所にはるというのは早急にはできませんか。

○出田裕重委員長 防災課長。

○防災課長（松下良卓） 小学校とか、地域の沿岸部の浸水区域の想定される地域の公会堂については、今年度そういうのをするような予定ではあります。ただ、ちょっと標高の正確なデータ等もほかの部署からもいただいたりとかしながら、できるだけ早くやって表示をしていきたいというふうには思ってます。

○出田裕重委員長 蛭子委員。

○蛭子智彦委員 今、地震対策の話だったんですが、土曜日の集中豪雨で三原川の護岸というのか、堤体というのか、大きな被害が出たと。これまでも、何回かそういうこともあったというふうに聞いとるんですが、三原川、倭文川というのは、非常に低地帯の中で老朽化がされてると、老朽化してると。これはもう、市民がそう皆感じとることなんですけれども、ハザードマップいっぱいつくっていただくのは結構なんですけども、こういう大きな雨で想像もしてなかったところかとは思うんですけどもね。非常に、そういう危険箇所ふえてるという印象があるんですね。そういった調査というのは、計画できないんでしょうか。老朽化なり、危険度の判定なり。これはやっぱりやっつく必要があるんじゃないかと思うんですが、いかがでしょうか。

○出田裕重委員長 総務部長。

○総務部長（淵本幸男） そういったライフラインで、都市整備部のほうも橋梁関係については危険度調査とか耐震度調査をして、年次計画でその対応をしていくというようなことですが、あとこの河川の護岸、その護岸に付随する堤防線とか道路、そういった部分については、なかなか今まで手が着いていないというような状況です。なかなかそれについては、この護岸の部分がございまして、河床整備をしたりいろいろな対応をしておりますが、なかなか延長とかそういう部分があったり、具体的な調査が今できていないという状況かと思えます。

○出田裕重委員長 蛭子委員。

○蛭子智彦委員 倭文川、三原川でいわゆる土羽というんですかね、その内側の堤体がやっぱり弱いという部分もあると思うんですね。それは、やっぱりしっかりと示して県土木とも協議、交渉をして、三原川河川改修計画という大きなものがあるんですが、どうもそういった部分が落ちこぼれてるといふか、見落とされてるといふ。これは、非常に市民生活にとっては脅威の話で。地震というのは、何十年に一回かということなんですけども、こうした豪雨というのはもうことしだけでも3回、年に3回も4回もこのごろあるというようなことで、よもやそういう河川は大丈夫だろうと思ってたところが、もう非常に予想を超えるという話になるわけですが、やはりここは想定をしておく、危険を事前に察知をしておくということが当然必要になってくると思うんですね。それは、やはりしっかりと対策をしておいていただきたいというふうに思います。これは、早急に県土木とも協議をしていただきたいと思うんですが、いかがでしょうか。

○出田裕重委員長 総務部長。

○総務部長（淵本幸男） 部署が違うというような部分で明快な答えはできないわけなんですけど、そういった今回の部分で60メートル程度ガードレールが落ちて、中央の部分まで道路が陥没したというような状況です。これも、今回の雨で、水位については15号なり12号のほうで水位が高かったわけですが、その12号15号の影響、そんな部分もあって今回そういった崩落があったんというような認識でございます。当然、そういった危険なところのパトロール、点検、そういったものが必要かなというように思ったりします。それらについては、また当然市なり県なりと協議の上行っていくというようなことになろうと思っておりますので、そこら辺をお伝えしていきたいというふうに思います。

○出田裕重委員長 蛭子委員。

○蛭子智彦委員 あと、風力発電、C E F南あわじウインドファーム株式会社の設置をした工事、風力発電ですね、施設の設置をしたと。その工事に伴って、林地開発などの許可を得て、防災上安全な対策をとってあるという評価がされている部分で、実際に土砂の崩落が起こったということなんですね。これは、今その土砂崩落による被害状況というのはどんなふうな把握をされておられますか。

○出田裕重委員長 市長公室次長。

○市長公室次長（橋本浩嗣） ただいま、ウインドファームの土砂の流出でございますが、そのウインドファームの会社のほうにおきましては、今はもうその手が加わってるので治山課の範囲を外れてるといようなお話がございましたが、ウインドファームにつきましては当然責任があるといようなことで、最初に自分とこの会社、土建屋さんと協議をしながらたたき台的な図面をつくって治山課のほうに行き、そして市長公室のほうも立ち会いをさせていただいて、治山課の後方的な支援をいただいて、それでもってまた現場のほうに行って丁張というんですか、現場でこういう工法でしたいといような説明の中で、また治山課のほうはこの位置よりこっちのほうがいいんじゃないかといような協議の中で、現在ふとんかご、それからそのふとんかごの中に割栗石を入れたような工法で、とりあえずは二次災害が発生しないような工法で今現在進んでいるところでございます。

○出田裕重委員長 蛭子委員。

○蛭子智彦委員 治山課って何ですか。もうちょっとわかりやすく。

○出田裕重委員長 市長公室次長。

○市長公室次長（橋本浩嗣） 済みません、県の農林の治山課でございます。

○出田裕重委員長 蛭子委員。

○蛭子智彦委員 ちょっと古い資料を見ておりますと、林地開発の申請書、C E Fがそれこそ治山課に提出をした申請書ですが、工事の道路ですね、道を削って側溝をつくるといようなことで、水がどこかに滞留をして土石流になったりしないような対策を側溝を

つくるということが計画の中に入ってるようです。それを見ると、10年確率の雨量に対して対応できるものをつくるというようなことになつとるわけですが、ここはやはりちょっと不十分な点ではないかというふうに思うんですけども。こういったことは、その対応を今後10年確率のもので今後も対応していくのか、もう少し違う角度で行うのか、そういった点は協議をされてるんでしょうか。

○出田裕重委員長 市長公室次長。

○市長公室次長（橋本浩嗣） まず、森林法に基づく開発工事の許可でございますが、これは先ほど申しましたように県のほうにございます。私も確認をしましたところ、側溝のライニング部分については10年確率というのは確認をしております。ここをどうするかというようなお話でございますが、基本的にはどういった工事、例えば河川であっても何年確率であるとか、またため池の余水吐は100年確率であるとか、そういったものは県なり国のほうで一応基準を定めておりますので、そこらにつきましては、私ども市長公室で10年確率でなしに30年50年しないとだめですよというようなことは言えないのかなというような認識でございます。

○出田裕重委員長 蛭子委員。

○蛭子智彦委員 この、言えないということでは困るんですね。確かに、開発工事については指導できるということになっておるけれども、その指導する内容が申請書に基づく指導ということになると、10年確率のものでできてるかどうかというレベルの指導しかできないわけですね。今回、このウインドファームが事業開始をしてからまだ4年か5年程度というようにちょっと理解しとるわけですが、5年でも既に大規模な土砂の流出があるということは、やはりちょっと問題ではないかというふうに思つとるわけですが。これは、平成19年の11月16日、中田市長がこの意見書を県民局長に出しておると。これを読むと、環境保全機能のところ、開発工事の実施に伴う土砂の流出等により、公共用水域、特に播磨灘を汚濁しないよう適切な措置を講じるよう指導されたい。これは県民局長への意見ですね。意見を求められて、県民局長に回答するという形で出してるようです。そのあとは、公害、苦情が発生した場合は、責任を持って対応するよう指導されたいと。こういう中身になっておりました、CEFのほうも誠意を持って、今、対応するという姿勢を見せていただいておりますのでこれは尊重したいと思うんですが。ただ、その目標が10年確率の降雨に対しての対応ということにとどまるのであれば、再度災害の発生というのが心配されるわけなんです。今回住民の皆さんがおっしゃってるのは、その状況について被害補償は当然ということながら、再度災害、この災害の再発を防止するという

ことが一番大きな眼目になってると思うんですよ。とすると、この10年確率の対応であれば、再度災害の防止になるのかどうなのかということのを非常に心配されるわけですが、その点いかがですか。

○出田裕重委員長 市長公室次長。

○市長公室次長（橋本浩嗣） まず再発防止の関係でございますが、今現在治山課の指導のもとに、当然湧水的なものも出てきますので、先ほど申しましたように、割栗石等で、調整池等も計画しておりますが、なだらかな流れの中で水を下流のほうに流していくと、上でためてしまわないというような工法でしております。

あともう一点委員がおっしゃられた、10年確率のライニングの断面のことでございますが、これは私も県のほうにはちょっと確認しましたが、今現在10年確率で許可をするというようなことでございます。また、治山課のほうには一度その辺は確認をしてみたいというふうに思います。

○出田裕重委員長 蛭子委員。

○蛭子智彦委員 それと、冒頭お伺いした、その被害状況について詳しい説明がちょっといただけなかったように思うんですが、説明いただきたいと思うんですが。

○出田裕重委員長 市長公室次長。

○市長公室次長（橋本浩嗣） あの台風のあと、丸山の漁業組合長さんのほうの事務所のほうにも寄せていただきました。組合長さん個人の工場というんですか、そこに当然皆さん大きな土砂がその工場のほうに入ってきたというのは御存じかと思えます。その辺も確認はさせてもらいました。あと、直接は聞いておりませんが、養殖の関係の方にも何か影響が出てきてるというようなことは回って市長公室のほうに入ってきております。

○出田裕重委員長 蛭子委員。

○蛭子智彦委員 あと、小磯水産の隣のタツミ水産も同じようなワカメの工場ということで事業やっとなられるようですが、道路なりの土砂は撤去されたと。しかし、海岸部ですかね、ここにまだ土砂がかなり放置されてると。そのことによって、海水の汚濁というのがかなり出ると。ワカメの業者の方は、大体そういう海の水を使ってワカメを洗ったり、その製品化の工程の中で海水を利用してるということなんですが、そういう濁った水を使

うと、この養殖業者も大変苦労してるということであるようですが、名前ちょっと出して恐縮なんですけど、ぜひこういうことは言ってほしいということだったので申し上げるんですけども、非常にこの水を使うと製品にクレームが来るんじゃないかという心配をされてるということで、そうした点も一度把握していただきたいなというふうに思っておりますが、その点よろしいでしょうか。

○出田裕重委員長 市長公室次長。

○市長公室次長（橋本浩嗣） 実は、私もそのことにつきましては昨日情報が入ったような状況でございます。先ほども申しましたように、回ってきたというような表現をさせていただきますましたが、直接その方からうちの職員も聞いているわけじゃないんですが、ワカメを洗浄するというんですか、洗うのに支障があるような話は聞いております。また、ウインドファームのほうにも、ウインドファームは多分聞いている話だと思いますんで、その辺はまたお話を聞いてみたいというふうに思います。

○出田裕重委員長 蛭子委員。

○蛭子智彦委員 いずれにしても、十分な補償していただくということと、再発防止ということ。再度災害が起こらないということを眼目において対応していただきたいというふうに思います。

この点終わります。

○出田裕重委員長 ほかに。

ございませんか。

蛭子委員。

○蛭子智彦委員 続いては、ちょっと角度がきょう初めて違う話で。大学誘致の関係のことなんですけど、17日に基本協定を結んで、ゴーサインを出して、全市挙げてまた議会も協力をしてという態勢で臨むということについては結構かと思うんですが、ただその内容について少しお伺いしたい点があります。

事実確認としてですね、今、順正学園で際だって大学誘致ということで、市と連携しているのが延岡市と高梁市ということになってるかと思うんですが、それらの先例もあるかと思うんですけれども、それぞれこの大学誘致に当たっての支援というのはどの程度これまでされてるかということについて説明をいただければと思うんですが。いかがでしょうか。

○出田裕重委員長 市長公室長。

○市長公室長（中田眞一郎） 少し、岡山県のほうの高梁市につきましては、まだ資料が集まっておりませんので発表できるところまではいっておりませんが、九州の延岡市にあります九州保健福祉大学、この状況につきまして少し御報告を申し上げたいと思います。ここにつきましては、金額で申し上げますと、当初山の面を削って造成して一から学校を建てたというようなことで総事業費124億円。そのうち、地元延岡市が79億9,000万円を助成したというようなことが延岡市のほうの聞き取りでわかっております。

○出田裕重委員長 蛭子委員。

○蛭子智彦委員 あと、薬学部の増設に当たってはどうか。延岡市のほうですが。

○出田裕重委員長 市長公室長。

○市長公室長（中田眞一郎） 後に、大学が設置されて4年後ぐらいに薬学の学部を新しく設置したと。その折にも、金額は正確にはわかりませんが、約20億円程度助成をしておるといふふうには聞いております。

○出田裕重委員長 蛭子委員。

○蛭子智彦委員 ざっと100億円ということであったかと思います。これは、私の調べたというか聞いた範囲なんですけど、高梁市の場合は、社会福祉学部というような2つの学部から出発をして、2011年までで大体59億7,000万円ぐらいの助成をしてるというようなことです。これは、大学誘致ということで、どうしても必要なこととして取り組まれたことと。加えて、高梁市のほうではこれに加えて農学部の設置の議論もあったようですけれども、なかなか負担が大変だということで、農学部の設置についてはちょっと見送りというような形になったというふう聞いております。南あわじ市の場合、結局、今、協定を結んでの今後の方向性なんですけども、この高梁市のほうも当初20億円ぐらいということでスタートしたようですが、年々学部増設また学生を集めるというのか、こういうようなことのために入学奨励金や、あるいは学生用のマンションの建設の助成とか、そういったものをトータルでざっと60億円ぐらいになったというようなことなんですけども、今後南あわじ市としては、これについてどこまでの範囲というのを考えておられるか、想定されておられるか、もう間近なことですので一定の考え方というのはやっぱり持

っておく必要があるのかなと思っただけなんですが、その点いかがでしょうか。

○出田裕重委員長 市長公室長。

○市長公室長（中田眞一郎） 今月の17日に、基本的な協定を結ばせていただきました。本当に、ごく基本的な事柄の調印ということで、今後は、次年度の予算の関係もございますので、九州の保健福祉大学の例を見ますと、予算が確定した来年の3月の末、今度は細目にわたる協定を結ぶ必要があるんじゃないかと。その中には金額も明示して、あるいは次年度どういう支援ができるか、あるいはこれも結構皆さん方が御心配をいただいております、もし学校が撤退するようなどときには土地建物はどうなるのかというようなところで、細部にわたる協定が来年には必ず協定を結ぶ必要があるというふうには思っております。

○出田裕重委員長 蛭子委員。

○蛭子智彦委員 細目の協定書であったり、いろいろな覚書や確認書類ですね、こういったものも相手さんとの話もあるかと思うんですけども、市民にある程度理解をしてももらうためにも、そういうものについてもオープンにしておくことが大事かなというふうに思っただけなんですが、そこら辺のスタンス、基本的な姿勢というのはどうなってますか。

○出田裕重委員長 市長公室長。

○市長公室長（中田眞一郎） 当然、次年度24年度の予算計上は、学部の設置に向けたハード整備、現在の志知高校の校舎の耐震化、あるいは修繕、それから一部新築というようなことになるかと思えます。南あわじ市の負担については、その予算で明らかになっていくということでございます。

それから、学部の設置ができた開学後のことでございますが、25年4月以降のお話でございますが、これにつきましては、高梁市あるいは延岡市と同様の、市と大学と一体となった連携が必要かなというふうなことで、やはりこちらの大学に入っていた子供さんたちにはそれなりのお祝い、あるいはそういう施策が市の独自の施策としてやっていく必要があるのかなというふうには思っております。

○出田裕重委員長 蛭子委員。

○蛭子智彦委員 具体的な施策については、今後出てくるんだろうと思うんですが、こ

の細目の協定書ですね、あるいは覚書や確認書、どんなことで関係プレーをとっていかうとしてるのかという内容について、市民にわかるように公開しておくということが必要でないかと。そのことに対してのスタンス、姿勢はどうですかという質問をしたつもりなんですが。

○出田裕重委員長 市長公室長。

○市長公室長（中田眞一郎） 基本協定につきましても、皆さん方にお示しをさせていただきます。当然、細目の協定につきましても、皆さん方にオープンな形で調印をしたいなというように思っております。

○出田裕重委員長 蛭子委員。

○蛭子智彦委員 その他、覚書であったり確認書であったりというのも、そういうのもやっぱりオープンにして、市民の理解を得ていくということが大事じゃないかと思うんですね。確かに、大学誘致ということでの活性化ということでの期待も高いわけですが、この大学も非常に経営的には、農学部というのは、今、人気が少し上がってきてる学部というふうに聞いとるわけですが、補助はしたけれど撤退というようなこと、今ナショナルとかシャープとか、大きなテレビの液晶のパネルの生産拠点を、企業誘致ということで相当な兵庫県なり大阪府からなり支援をもらった施設でもう事業をストップというような、操業停止というようなこういうこともあるわけですね。ですから、そういう点もやはり紳士協定ではなくて、しっかりと協定の中に事業への撤退をしてもらわないような歯どめ策という失礼なんですけれども、そういう条項は必要ではないかと思うんですが。企業誘致なんかでやっぱり補助した場合にも、一定のそういう条件というのをつけていくと思うんですけども、そこら辺の考え方はどういうお考えでしょうか。

○出田裕重委員長 市長公室長。

○市長公室長（中田眞一郎） あくまで、今後大学側との協議の結果によるというふうに思います。今、議員が御指摘いただきました問題、課題は、かなり多いというふうに私自身も認識をしております。しかしながら、現在のこの市の状況を見ますと、そういう大学の学部をある程度リスク覚悟で誘致して、町の活性化を図る必要があるんじゃないかと。長い目で見れば、南あわじ市の将来にとって非常に有益なことであるということを感じながら、大学と今後言いにくいことも言い合いながら細目協定を準備したいというふうに思っております。

○出田裕重委員長 蛭子委員。

○蛭子智彦委員 ちょっと調子悪いからということで撤退がないように、20年30年のスタンスが確保できるような条件をやっぱり入れておくべきだというふうに思うんですね。大学のほうも、かなり聞くところによると財務状況はいいというふうに聞いてるんですけども、その点いかがなんでしょうか。

○出田裕重委員長 市長公室長。

○市長公室長（中田眞一郎） 財務状況は、ホームページで公表されております。見る限りでは、ほとんど借り入れもなく、預貯金のほうもかなりあるというようなことで、非常に経営については優良であるというふうには聞いております。

○出田裕重委員長 蛭子委員。

○蛭子智彦委員 私の調べた範囲でも、現金ですね、流動的なそういうものでも100億円近いものも持っていると。それから、有価証券的にもかなりあるというふうにも、現金を相当上回るようなものもあるというふうに聞いておるんですけども、体力のある大学というふうに認識はしとるわけですけども、ただ人気のある学部と定員割れをする学部というようなこともあって、高梁市のほうの順正学園、高梁市のほうを見てみると、10年前に比べて大体学生数で1,000名ぐらい減ってるというような数字も出てるんですね。だから、いかに大学というの厳しい面もあって、いろいろ努力していることへの応援というのは当然やっていくということもあるんだろうと思うんですけども、一定の歯どめ的なものを持っておかないといけない部分もあるのかというふうに思いますので、その点高梁市のほうの状況をまだ全然調べてないということはちょっとよくないなと。やっぱり、その延岡市、高梁市それぞれの状況をリアルにつかんでいただいて、南あわじ市のスタンスというのを決めていただくということが大事かと思うんですが、その点いかがですか。

○出田裕重委員長 市長公室長。

○市長公室長（中田眞一郎） 幸い、今週の末に南あわじ市議会の産業建設常任委員会の皆さんが延岡市のほうに視察に行くというようなことで、十分な調査を、それもお願いしたいと思います。今回、調印式のおきにお世話いただいております内藤先生のほうから、今回の学部につきましては地域創成農学部というような、あくまで仮称でございますが、

地域創成農学部ということで、子供たちが大学で学ぶだけじゃなしに、いかに地域と連携して地域を活性化するかというところが、日本全国には今のところオンリーワンであるというようなことでこういう名称もつけられたというふうには聞いております。大学と地域が、いかに今後連携して子供を集めるか、あるいは主産業である農業を活性化していくかというところが、今後非常に大事になってくるのではないかと聞いております。高梁市の状況も、随時調査をしていきたいと思っております。

○出田裕重委員長 ほかに。

川上委員。

○川上 命委員 ちょっとこの学校問題ということは文教に関係あるんですが、この3番の市有財産維持管理ということにも関連があるんでちょっとお聞きしますが、津井の小学校もいまだにつぶしていただきたいという、解体をしていただきたいといいながらいまだにできてないという中で、あすから学校、保育園、辰美中学校か何か知らんけど、統合についての地区別の懇談会があると。伊加利、阿那賀、丸山、津井ということであるわけですが、これはこの間の教育委員会の発表したことを実践していくのか、それとも南あわじ市全体の中で学校を考えた場合の、西淡地区の児童数が少ないからそういった辰美中学校区だけ市民の意見を聞くと。聞いても、市民は十人十色いろいろあるわけで、そういったときに南あわじ市としての方針があるのかないのか、そういったこともわからんのですわ。そういった中で、仮に統合すればまた空き地、校舎の空き地が物すごい出てくるわな。幼稚園も統合、4つなら4つ3つなら3つ統合するやろ。辰美中学が統合すれば辰美中学があいてくる。そういった考えの中で、そういう座談会をして、その意見の集約によってどういうふうにその処理をしていくかわからんねんけど、これはどうですか。市長公室として何か、教育委員会に任せきりですか、これどうですか。

○出田裕重委員長 ちょっとその前に。

委員の皆さんお諮りしますが、このまま続行させていただいてもよろしいですか。

川上委員。

○川上 命委員 ちょっとこれだけ簡単に聞いて。

○出田裕重委員長 市長公室長。

○市長公室長（中田眞一郎） 教育委員会のほうでは、何も辰美校区だけで説明会を開いておるわけではないと思います。5月に学校再編の基本計画を教育委員会で策定して、

それに基づいて、今それらに載っておる学校、保育所、保育園、幼稚園ですか、そこら辺の説明を地域とそれと保護者、これを区別して説明会に順次行っておるといふ方には聞いております。

○出田裕重委員長 川上委員。

○川上 命委員 しかし、通知出してるのは辰美中学校区だけでしょ。ここら、三原地域からずっと皆出してますか。

○出田裕重委員長 市長公室長。

○市長公室長（中田眞一郎） 教育委員会が策定しておる、学校再編の基本計画という冊子があるんですが、そこに該当しておる、今、申しあげました幼稚園、それから小学校、そこら辺の対象地域、対象保護者に通知を出しておるのかなというふうに思います。ですから、この辺につきましては、その今回の統合、合併の対象になっておる学校がないというようなことだと思います。

○出田裕重委員長 川上委員。

○川上 命委員 私が一番心配をされた、4地区全部回ろうと思とんで、一番心配されとるのは伊加利、阿那賀、まず、今、発表されたこの間の発表のとおり、3幼稚園を合併して津井地区は残しとこうと。湊地区も児童数が減ってきている。辰美中学校だけ御中に合併ということで、その目標に向かっていきよんのか、南あわじ市としての学校全体、南あわじ市の学校再編成の中でそういうようにされとるのか。中には志知地区、三原志知と西淡志知で考え方が違うわけで、そういった中で、こっちの三原の学校へ行きたいという希望者もかなり。そういったことすべての中で、個人個人地区回りをした中で意見、なかなかいろいろな意見出た場合集約しにくいと思う。そうした点、私は最終的にはやっぱり議会の可決もいるし、行政の試案というのにも必要になってくると思う。そういった点、やっぱり十分熟知してやりよるのかな、どないかな。

○出田裕重委員長 市長公室長。

○市長公室長（中田眞一郎） 教育委員会が主体になってやってるので、私のほうからどうこう申し上げることはないんですが、とにかく基本的な計画を春に立てまして、それをもとに対象地域、あるいは対象保護者の方に御説明を申し上げ意見を聴取すると。その

後に、教育委員会は教育委員会で最終的な決定をしたいというふうな方向で、今、各地域、各保護者の皆さん方に意見をお聞きしとる段階だと思います。決定するまでには、今から教育委員会という最終的な決定の場所もございますので、その辺は地域の皆さん方から出た御意見をもとに、基本的な計画は計画として、考え直すことも中にはあるのかなというような印象を持っております。

○出田裕重委員長 川上委員。

○川上 命委員 最後をお願いするのは、我々も旧西淡で議会議員させていただいて、辰美小学校と辰美中学校の統合についてちょっと失敗というか、こんなことは市民は怒るかもわかりませんが、一応やっぱり統合の問題があったと。その中で、今回もやっぱりやかましく言われてるのは、統合しても学校があいてくると、廃校になってくる。その廃校の跡地も考えた中での統合も視野に入れとんのかという意見もあるわけ。やっぱり、そういったもん、ただ単に合併合併して、廃校になったとこ放つたらかしのすると。やっぱり、そういったことを考えた中で、行政というものをやっていかなんだら、せつかく税金投入した中で建てとる、これからまた新築せんなんいうこと。やっぱり、もっと計画的にやってほしいということ言われますんで、一つこの地区回りは回ってくるけど、市長公室が総括的な責任をとるのかどっちか知りませんが、教育委員会は責任をとるのか知りませんが、そういった面十分協議していただきたい。回ってきます。

○出田裕重委員長 ほかに。
柏木委員。

○柏木 剛委員 若人の広場の整備事業が、何か進展があったというふうにお聞きしたんですが、ちょっと具体的にどんな格好で進展したのかお願いします。

○出田裕重委員長 市長公室長。

○市長公室長（中田眞一郎） 8月9日に基本的な調査を行いました。エリアにつきましては、当然記念の塔、それからアプローチ、それから丹下先生の代表的な建築物といわれております建物、外壁内部、それから食堂がございました食堂、宿泊棟、これらについて傷みぐあいを徹底的に調査をいただいております。まだ、その結果の報告は参っておりませんが、中間というようなことで口頭で当初考えておったより傷みがひどいと。特に、丹下先生の代表的な建築物である石壁を利用した建物、これは内部、外部とも相当な傷みがあるというふうな中間的な報告は受けております。

○出田裕重委員長 柏木委員。

○柏木 剛委員 それは、9月時点のお話とあんまり変わらない話だと思うんです。何か、それ以後進展があったとお聞きしたんですが、特にそれは今の状況までですか。傷みがひどいということがよりわかったということだけですか。

○出田裕重委員長 市長公室長。

○市長公室長（中田眞一郎） はい、そういうことで、もう間もなく最終的な報告が出てこようと思いますが、今、同時に設計士さんのほうに具体的な改修計画、パターンA、B、C、Dぐらいで予算を見積もっていただいております。例えば、記念塔を含めたすべてをつぶして広場にするのか、あるいは記念塔を残すのか、石壁の建物を残すのか、食堂、宿泊施設はどうするのかというようなシミュレーションを今お願いをしております。間もなく、その概算の予算ですが、出てくるかと思っております。そのシミュレーションが出てきた時点で、今までこの大見山の財団のほうからなかなか動きがとれなかったわけなんです、再三再四にわたって御尽力をいただいた皆さん方にお集まりをいただいて、その改修計画について御意見をお聞かせいただける懇談会を設置して、皆さん方の御意見を聴取して、その上で県と市で最終的に改修方法を決定したいというふうに思っております。

○出田裕重委員長 柏木委員。

○柏木 剛委員 わかりました。これは、県が3分の2というような話ですけど、最終的な整備のゴールは何か目途をおいとんのですか。公園化の。

○出田裕重委員長 市長公室長。

○市長公室長（中田眞一郎） 知事のほうからは、平成25年の10月21日、学徒出陣の70周年であるというふうな御発言がございましたが、日程的に考えてそれは少しちょっと無理があるのかなというような思いがありますので、整備につきましては、25年、6年度2カ年かけてできればなというふうには思っております。

それから、先ほど今まで大変な御尽力をいただいた方々に御意見をお伺いしたいというようなことで、今、これはもう私の私案でございますが、旧の南淡町長のお二人の方にお集まりいただいて、あるいは県の県民局、あるいはこの担当しております県庁のビジョン課、それから県会議員の皆さんに入ってきていただいて、率直な御意見をお聞かせいただきな

がら、最終的に県と方向性を決めていきたいというふうには思っております。

○出田裕重委員長 ほかに。
 ございませんか。

(「なし」と呼ぶ者あり)

○出田裕重委員長 執行部から報告事項があれば。
 ございませんか。
 北村委員。

○北村利夫委員 その他でちょっと1つだけ、台風の関係で通行どめの箇所まだ何か所か残ってるんですか。というのは、きょう来しなに見たんやけども、都美人の横が通行どめになっとった。

○出田裕重委員長 防災課長。

○防災課長(松下良卓) 今現在は、都美人のほうから押上橋という、三原川左岸のほうの部分でございます。

○出田裕重委員長 北村委員。

○北村利夫委員 その復旧のめどというのは、わからないんですか。これは土木課に聞かなあかんのかな。

○出田裕重委員長 総務部長。

○総務部長(淵本幸男) 護岸と道路との兼ね合いがありますんで、当然仮普及につきましても、水量が減ってからというようなことになろうと思いますが、今県の洲本土木と、市の都市整備部といろいろと協議をしてる最中かなというように思ったりします。

○出田裕重委員長 北村委員。

○北村利夫委員 ということは、普及のめどは今のところたっていないということですね。終わるときです。

○出田裕重委員長 ほか、ございませんね。
それでは、副委員長閉会のごあいさつをお願いします。

○熊田 司副委員長 それでは、以上をもちまして総務常任委員会を終了いたします。
本日は大変御苦勞さまでした。

(閉会 午後 0時10分)

委員会条例第30条の規定により、ここに署名する。

平成23年10月25日

南あわじ市議会総務常任委員会

委員長 出 田 裕 重